

令和 5 年 6 月 16 日現在

機関番号：32636

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2022

課題番号：19K00063

研究課題名(和文) 東アジアにおける天文占知識の形成と伝播

研究課題名(英文) Formation and dissemination of astrological knowledge in East Asia

研究代表者

田中 良明 (TANAKA, Yoshiakira)

大東文化大学・東洋研究所・准教授

研究者番号：90709354

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の研究成果として、以下の三点を挙げることができる。(1)「天文占知識の史的展開」という認識が共有された各メンバーによる研究。(2)国際シンポジウムの開催。(3)21種の天文占文献の解題を作成。なお、(2)については他の研究グループとの共催である。社会状況の変化に起因して、特に(3)に注力することとなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

上記(1)により、天文占という占術が各時代や地域に与えた思想的影響が検討され、各時代・地域の独自性をより明らかなものとし、他分野の研究における従来の中国思想の捉え方に対して補足を加えた。また、(3)はすでに多方の支持を受け、対象の拡張を求められており、本研究分野の進展が他分野の研究発展に寄与することを確認している。

研究成果の概要(英文)：The following three points are the achievements of this research. (1) Research by each member who shared the recognition of "historical development of astrological knowledge". (2) Holding international symposium. (3) Compilation of commentaries on 21 astrological literature. (2) is co-sponsored with other research groups. Due to changes in social conditions, it was decided to focus on (3) in particular.

研究分野：中国思想史

キーワード：天文占 災異説 宇宙構造論 禁書政策 漢籍受容 文献解題 術数学

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

近現代における中国天文学研究は、科学史的観点による暦法研究に集中しており、天文占を常に研究の対象外とした。また、諸占術の総称である「術数」の研究においても、木村英一(1950)以来、近現代科学の合理主義的立場に対する易や陰陽五行説に基づく術数学の「数理」的合理性や、宇宙観の観点からの研究が行われてはいるが、それらの中で天文変異の位置づけは議論が不十分である。また天変地異を天譴と見なす災異説の中でも、天文変異の位置づけは不明瞭であり、災異説と天文占との差異に着目した研究はほとんどなかった。

天文占とは、概念的な天への思想を根底にしながらも、現実目視される天象と人間社会との間を繋ぐ知識であり、それに依拠した思想的活動でもある。『漢書』芸文志以来の伝統的図書目録では術数(諸占術)の筆頭として扱われる一方、歴代王朝に専門官が設けられ、多くの天文占書が勅撰されてきた。したがって、その重要性は、思想史だけではなく、社会史研究においても看過できない。現在、一部の研究者によって天文占を対象とする研究が個々に行われているが、それら個別の研究成果と課題を繋ぐ、通史的・俯瞰的な天文占研究が必要となるのである。

2. 研究の目的

本研究では、中国哲学・科学思想史・東洋史・日本史を専門とする複数の研究者によって、通時代的視座に立ち、天文占の形成から発展にわたる思想的展開・社会的受容、そして東アジア諸国への伝播の状況を整理・検討し、術数学を含む中国思想史における天文占の思想的・学術的特徴を通史的に解明してゆくことを目的とする。それによって、従来軽く見られがちであった儒教や術数学における天文占の意義や価値が明らかになり、「術数」や「災異」などの諸概念の再考を促すことにも繋がると考えた。

3. 研究の方法

本研究では、中国思想史に多大な影響を与えた漢代と、東アジア諸地域に対する文化的影響が文献的に遡求できる唐代を中心として、天文占の変遷過程に、時代的・文献的メルクマールを設定し、思想の形成過程・成書による知識の固定化・文献による知識の伝播といったテーマからの考察と意見交換を行うとともに、天文占文献の解題作業を進め、最終的にはそれらを総合した通史的な認識を議論する予定であった。しかし社会状況の変化に伴い、最終的な総合的議論は困難となったため、その時間を解題の作成に当てた。

4. 研究成果

(1)「天文占知識の史的展開」という認識が共有された各メンバーによる研究

本研究は、天文占の思想的展開について、天文志や天文占書の構成について、社会的受容について、地理的な伝播・受容についての4つのテーマを設定して行われた。ただし以下に述べるように、個々の研究は必ずしも個別のテーマの範囲内に収まるものではない。

田中は、『漢書』において日食記事が五行志に収められたことに注目し、特に漢代日蝕に対する災異説の特徴から、それらが天文占知識や経書の記述のみではなく、過去の災異に対する自己の解釈をも根拠としており、五行志に載る天文に関する記述の多くに、個々の災異説者によって、個々の災異に対する解釈や対応方法が構築されていく試行錯誤の迹を確認できることを論じた(2019)他、唐の李淳風の『乙巳占』の書誌整理と成書年代の考察、および後代の需要、特に日本の勅文中に見える引用の特徴について論じている(2022)。

高橋は、古来天文占に含まれ、多くの天文占書にも篇章を割かれる雨占について詳論し、従来望気や風占に比重の置かれていた気象占研究に対し新たな視点を提示した(2019)他、宇宙構造論と天文・暦法との関係を論じ、蓋天・渾天・宣夜の三説の差異が後漢末の蔡邕によって初めて論じられ、それが『宋書』以降の天文志に記されるまでは、蓋天・渾天両説の差異は明確ではなく、渾天説には蓋天説の特徴とも言える周髀を用いた観測法と一寸千里の説が内包されていることから、観測儀器的成立と宇宙論の形成が関係するとされた従来の学説に対し、それぞれを区別した視点の必要性を指摘した(2022)。

佐々木は、天文占とともに五行占(怪異五行占)を併載した「天文五行占書」の編纂と禁書政策を、漢代から清代に至るまで通観し、晋代以降編纂され続けた勅撰系占書の一部が、明末以降に出版・流布されたことを論じ、その背景に当時の、「天文図讖」禁書の有名無実化と天文五行占の地位低下という表裏一体の現象を認めるとともに、そうした出版・流布によって、社会通念としての怪異観に浸透していくことを論じた(2022-03)上で、その実態を示す一例として、勅撰系占書と通俗系占書との中間の特徴を備えた『礼威含文嘉』の特異性を示した(2022-12)。

水口は、多くの地震や天文変異などに対して、占書を引用して対応を記した勅文(の草案もしくは写し)を集め土御門家に伝えられた『家秘要録』『天変地妖記』について、長く行方不明であった原本の調査報告を行うとともに、諸本の異同と関係を明らかにし、両書の作成目的と時期を論じた(2020)他、天文占を含む術数学や祥瑞災異の諸思想、改元などの諸文化の影響が、日本の陰陽道等の成立や隆盛を論じる上で重要な視点を提供し得ることを、複数の角度から論じ

た(2022-03・2022-12)。

(2) 国際シンポジウムの開催。

2022年9月3日(土)午後13:00より科学研究費基盤研究(B)「5～12世紀の東アジアにおける術数文化の深化と変容」(代表:水口幹記)および科学研究費基盤研究(C)「中国古代術数学における占術と儀礼」(代表:名和敏光)と共催し、国際学術シンポジウム「術数文化の世界 学術・占術・文学」を開いた。会場は青山学院大学17号館311教室、ハイブリッド方式を採用し、進行は以下の通り。

・水口幹記「趣旨説明」

基調講演

・水口拓寿(武蔵大学教授)「術数」概念を再考する 「術数文化」研究の補助線として」(司会:水口幹記)

個別報告(司会:田中良明)

・小倉聖(大東文化大学非常勤講師)「馬王堆漢墓帛書に見える刑徳を用いた風占と銀雀山漢墓竹簡に見える八風占との比較」

・高橋あやの(分担者)「朝鮮天文学の知識の源泉 朝鮮初期『天文類抄』を例として」

・山崎藍(青山学院大学教授)「顔之推『稽聖賦』について」

コメント・総合討論(司会:名和敏光)

コメント:武田時昌(京都大学名誉教授・関西医療大学客員教授)

鄭宰相(円光デジタル大学助教授)

(3) 21種の天文占文献の解題を作成

天文占研究の基礎的資料となる文献資料二十一種を対象に、それぞれ概要・成立年代・選者・内容・テキスト・参考文献などの項目を設け、他分野の研究者であっても、個々の文献の特徴や概略を把握し、なおかつ当該資料を利用するにも、比較的容易となることに留意した解題「天文占文献二十一種解題(稿)」を作成した。載録した天文占文献は下記の21種である。

1.『史記』天官書、2.『漢書』天文志・五行志、3.若杉家文書『石氏簿讚』、4.『歩天歌』、5.『乙巳占』、6.『晋書』天文志、7.『隋書』天文志、8.『天文要録』、9.『天地瑞祥志』、10.『開元占経』、11.『礼緯含文嘉』、12.『乾象新書』、13.『乾象通鑑』、14.『靈台秘苑』、15.『觀象玩占』、16.『天元玉曆祥異賦』、17.『天文図象玩占』、18.『管窺輯要』、19.『家秘要録』・『天変地妖記』、20.若杉家文書『雜卦法』、21.皆川家旧蔵資料

また、付録として『隋書』経籍志子部天文・『日本国見在書目録』の天文家・『至正条格』の禁書目録の三種の解説と書目を載せている。

配布先の近隣諸分野の研究者からはすでに一定の評価を得ており、若干の増補と修正を加えたものが公刊される予定となっている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計9件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 高橋あやの	4. 巻 214
2. 論文標題 雨占研究序説	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東洋研究	6. 最初と最後の頁 1-25
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 田中良明	4. 巻 214
2. 論文標題 『漢書』五行志に於ける漢代日食記事	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東洋研究	6. 最初と最後の頁 27-48
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 水口幹記	4. 巻 57
2. 論文標題 『家秘要録』『天変地妖記』の原本と成立について	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 藤女子大学文学部紀要	6. 最初と最後の頁 117-133
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 田中良明	4. 巻 249
2. 論文標題 前漢経学者の天文占知識	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 アジア遊学（川原秀城編『漢学とは何か 漢唐および清中後期の学術世界』）	6. 最初と最後の頁 46-60
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 水口幹記	4. 巻 863
2. 論文標題 陰陽道・宿曜道別立隆盛の淵源 術数文化 の視点から	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 歴史評論	6. 最初と最後の頁 28-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 水口幹記	4. 巻 278
2. 論文標題 「東アジアという視点」から考える陰陽道	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 アジア遊学 (陰陽道史研究会編『呪術と学術の東アジア 陰陽道研究の継承と展望』)	6. 最初と最後の頁 207-220
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中良明	4. 巻 278
2. 論文標題 唐の李淳風の『乙巳占』	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 アジア遊学 (陰陽道史研究会編『呪術と学術の東アジア 陰陽道研究の継承と展望』)	6. 最初と最後の頁 221-233
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐々木聡	4. 巻 278
2. 論文標題 『礼緯含文嘉』の諸伝本と近世における天文五行占書の流布	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 アジア遊学 (陰陽道史研究会編『呪術と学術の東アジア 陰陽道研究の継承と展望』)	6. 最初と最後の頁 234-247
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 水口幹記	4. 巻 107
2. 論文標題 蘇民将来札考 出土木簡から考える	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 藤女子大学国文学雑誌	6. 最初と最後の頁 1-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件)

1. 発表者名 水口幹記
2. 発表標題 陰陽道・宿曜道別立隆盛の淵源 術数文化 の視点から
3. 学会等名 日本宗教史懇話会サマーセミナーシンポジウム「変革期の社会と宗教」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 水口幹記
2. 発表標題 關於《家秘要録》与《天变地妖記》
3. 学会等名 「從中古到近代：写本与跨文化研究」国際學術研討会 (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 高橋あやの	4. 発行年 2022年
2. 出版社 汲古書院	5. 総ページ数 27
3. 書名 水口拓寿氏編『術数学研究の課題と方法』の内「漢代における術数と天文学的宇宙論」	

1. 著者名 佐々木聡	4. 発行年 2022年
2. 出版社 汲古書院	5. 総ページ数 28
3. 書名 水口拓寿氏編『術数学研究の課題と方法』の内「中国歴代王朝における天文五行占書の編纂と禁書政」	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	水口 幹記 (MIZUGUCHI Motoki) (40339643)	藤女子大学・文学部・教授 (30105)	
研究分担者	佐々木 聡 (SASAKI Satoshi) (60704963)	金沢学院大学・文学部・准教授 (33305)	
研究分担者	高橋 あやの (TAKAHASHI AYANO) (60734241)	関西大学・東西学術研究所・非常勤研究員 (34416)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------